

<事業所自己評価>

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 生きがい十和田	事業所名	ナースケア24プラス
所在地	(〒 034 - 0005 ) 十和田市大字三本木字一本木沢 49-2		

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2024 年 1 月 31 日	従業者等自己評価 実施人数	( 7 ) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	---------	---------

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
			自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)		職員間の情報共有はグループラインを活用し情報の共有が出来た。 グループラインの他、業務日誌に記載されている申し送りで情報共有できた。	情報共有はグループラインを活用しているが、個人情報流出のリスクがゼロではないことを認識し個人情報が特定されないような工夫が必要。 新しい施設なので災害時のマニュアルの周知をし、いざという時に対応できるような訓練の継続が必要。	災害時いざとなった時、通報できるように実際に消防署に連絡を取り（通報訓練などの実施）対応に備えてほしい。 又、BCPの計画を参考に、各部署での実施、見直しや改善をしていってほしい。

Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)		寝たきりの方が多く登録している事もあり、看護師・介護職員のスキルが求められる機会が多くあるが、看護師・介護職員が連携しケアに取り組むことが出来た。	現在も、月ごとのテーマに合わせてe-ラーニングでの研修に取り組んでいるが、今後も介護技術や知識向上を継続して図れるように取り組みたい。	虐待などの研修は、eラーニング研修での知識の周知や気になる方への声掛け、傾聴を行い身体拘束や虐待についての研修を継続してほしい。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)		全利用者に終末期における医療処置について意向確認を行っている。また、急変時は救急隊や救命医へも情報提供している。	入所時に終末期における医療処置について意向確認しているが、状況に合わせて何度も家族や本人の意向を確認していく必要。	終末期の方の意向確認は、意向の違いで訴えられる事もある。入居初めの意向と気持ちが変わる方もいるため、更新が必要と思う。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)		運営推進会議を開催し、情報提要进行をした。 地域への行事参加は登録者の状況から難しい状況にあるが、今年は官庁街に桜を見学に行く事が出来た。	登録者の状況に合わせて地域行事への参加を継続していく。 来年度も花見見物の他、地域の花火大会に参加したい。	感染対策に気を付け、今年度町内会の花火大会の開催できた。町内会単位での花火大会は一本木沢で長く継続されている行事である。今後もぜひ参加してもらえればと思う。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)			お看取りができる体制は整っておりすぐに対応できる状態となっている。ご本人様やご家族様の希望をサポートするため、終末期における希望の確認を随時行っている。	計画目標はおおむね達成されている。看取りの症状変化の家族説明、対応について要望を確認しながらできている。	通い、訪問、泊りのサービスを利用し、医療が必要な状況になっても安心して在宅で生活できるように、今後も頑張りたい。

■ 「今回の改善計画（案）」および「運営推進会議における評価」

項目	改善計画（案）	運営推進会議における意見等	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営が法人の理念に基づいた、事業所としての理念と行動指針が明確になるよう検討していく。</li> <li>・職員間の情報共有はグループラインを活用しているが、個人情報を取り扱っている事を理解し特定されないような工夫が必要。例え：名前の表記→鈴木美様</li> <li>・新しい施設なので器具の取り扱い等災害時に対応できるようにマニュアルの周知をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人職員や特定技能職員も含めて全職員に、わかりやすく理解されるようなもので、掲示するなど方法も考える。</li> <li>・個人情報特定されないよう、外部の目に触れても特定が来ないように工夫して欲しい。</li> </ul>	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護・介護職員の知識・技術向上のため、e-ラーニング活用し習得に取り組む。</li> <li>・利用者の特性や病気を理解したうえで、生活を支える視点でサービスを組み立てていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の負担にならないよう工夫し、研修やカンファレンスをして、職員のレベルアップにつなげて欲しい。</li> </ul>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時に終末期における医療処置についての意向確認を継続しつつ、その後は状況に合わせて随時確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関とのカンファレンスや連絡ツールを活用しながら、今後も多職種との連携を図って欲しい。</li> </ul>
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護小規模多機能居宅介護の事業所サテライトがこの地域にあることを、周知 PR する機会をつくる。</li> <li>・利用者の体に負担がかからないように配慮しながら、行事計画を立てて参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会では一本木沢しか花火大会を開催していない。皆さん楽しみにしているので今後も継続していきたい。ぜひ参加してください。</li> </ul>
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期における希望は、利用開始時期だけでなく状況変化に合わせて随時確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人と家族の意向を確認し、安心して療養できるようにして欲しい。</li> </ul>	